混合保育

混合保育って何だろう？と思われる方もいると思います。愛星保育園では、その子の成長発達に合わせてその子が安心できる環境であれば自分のクラス以外で過ごしたり、「０歳児だから、２歳児や幼児とは（成長発達が違い過ぎるから）過ごせない」ではなく、年上児のしていることに興味をもっているのであれば、クラスを分け隔てるのではなく、保育者が環境の安全を確認した上で判断をし、子どもの主体性を大事にした保育をすることと考えています。

乳児組（0.1.2 歳児）

乳児組は各クラス５名ずつ新入園児を迎えます。夏前まではまずは新しい環境に慣れ、よく関わる保育者との信頼関係を築き、保育園でも安心して自己主張ができるように各クラスでの活動を多く取り入れています。７月、水遊びが始まると１階テラスで３クラスが遊ぶこともあり、次第に他クラスの遊びに興味をもち始め、自然と他クラスに遊びに行く姿が見られるようになりました。保育者同士も「〇〇ちゃん、一緒に遊んでいい？」「大丈夫ですよ。一緒に遊びますよ」といったやりとりをしながらその子が楽しく遊ぶ姿、異年齢児との関わりを見守ってきました。秋になるとその関わりは増し、０歳児は夕方、隣の２歳児クラスに遊びに行くことを繰り返すことで保育者の手を離れ、ままごとやブロックコーナーで２歳児と同じことをして遊んだり、反対に２歳児は同年齢児であれば玩具の取り合いで喧嘩をするところも０歳児であれば「これ、貸してあげるよ」「一緒に遊ぶ？」など優しい声掛けをして関わっていました。１歳児はクラス内だと一緒に過ごす保育者に「やって」「抱っこ」と求めている子も２歳児クラスと散歩に出掛けると年上の子の行動を見て自分でジャンパーを着ようとしたり、手を繋いで少し遠くの公園まで往復歩いて遊び、満足そうな表情をして帰園する姿はたくさんの刺激を受けながら楽しんできたんだなと感じていました。

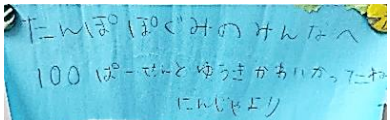
毎月の乳児職員の話し合いでは、自分のクラスのこと以外に他クラスの子どもへの関わりについて皆でアイディアを出し合っています。愛星の協働保育担当制が活かされていることも感じるこの１年でした。子ども達が安心できる環境の中でその時にあった成長ができるように今後も職員同士連携を取りながら子ども達と関わっていきたいと思います。

幼児組（3.4.5 歳児）

年度初めは３歳児と 4.5 歳児で生活や遊びを分け、３歳児はクラスの小さな集団で安心して生活ができるように関わってきました。初めは年上児との関わりに緊張する姿もありましたが、新しい生活に慣れてくると、4.5 歳児の遊びに興味が広がり一緒に遊ぶようになりました。一緒に散歩に出かけたり、午後の時間は年上の子の遊びに興味を持ったり、先に午睡の片付けが終わった５歳児が３歳児の着替えを手伝うようになりました。夏頃になると５歳児は夕方に乳児組のお手伝いに行くことが増え、３ 歳児は４歳児の遊びを真似たり一緒に遊ぶ姿が多く見られてきました。夕方の自由遊びの中で３歳児が自分では難しく困っていると４歳児が「どうしたの？」と困っている姿を見て声を掛け、手伝ってあげる姿が多く見られるようになりました。今年度の５歳児は全体的に穏やかで優しい雰囲気が年下の子に安心感を与え、乳児は５歳児の姿を見かけると親しみをもって膝の上に座ったり、手を振ったりする姿も多く見られていました。年下の友達に頼りにされることが年上児にとても喜びでした。

３歳児は今年度年間を通して「忍者」を取り入れ、忍者から巻物が多く届きました。運動会の時は子どもの字で「たんぽぽぐみさん、おゆうぎじょうずだったね」と書かれたものが届きました。保育者が生活や行事の節目に忍者として届けていた巻物ですが、4.5 歳児の誰かが家庭で巻物を用意し、３歳児にエールを送ってくれたのです。幼児組内で保育の内容を子ども達にも伝えたり、幼児組全体で楽しめるように関わってきたことでそのような姿に繋がったと思います。

同年齢児と過ごす自分と異年齢児と関わる時の自分。色々な経験を通して社会性・心が育っていきます。必要な時には保育者が仲立ちとなりながら関わる機会を大切にしていきたいと思います。



子どもから届いた巻物

世界の料理を通じた食育の実践

栄養士　伴田　智香（株式会社メフォス）

今年度も調理保育・食育と様々な取り組みに関わらせていただき、愛星保育園の「子も親も職員もともに育ちあう」という保育理念に寄り添える給食の在り方を考えて参りました。今年度は子ども達が世界に興味をもち、多様な文化に触れるきっかけとなるよう世界の料理を給食に取り入れる「世界の料理献立」を実践してきました。食は文化を映す鏡とも言われ、その国ならではの食材や調理法を体験することで、子ども達に異文化への関心を深めてもらいたいとの思いからでした。しかし実際に給食で世界の料理を提供するには食材の入手が困難であったり子ども達の味覚に合うように調整が必要であったりと様々な課題がありました。その中でもできる限り本場の味を再現しながら子ども達が食べやすいようにアレンジを加える工夫も努めて参りました。こうした取り組みの中で子ども達が「この国の料理をもっと知りたい」「実際に行って食べてみたい」と興味を示してくれる場面が多くみられ、食を通じた異文化理解の大切さを実感しました。

また日本の食文化を深く理解する食育の一環としてお米の食べ比べや出汁の飲み比べも行いました。日本各地のお米を食べ比べることで「もちもちしている」「甘味がある」などそれぞれの特徴を感じ取り味覚の幅を広げる機会になりましたし、「どのお米が好きか」「どんな料理にあうか」といった関心をもつようになりました。

また調理保育では干し芋・ドライフルーツ作りやクッキー作りを行い見た目や味わいなど食材の変化を楽しみながら学ぶ活動となりました。みんなで作業を進める中で一緒に作り上げる楽しさ、達成感・助け合いの大切さも学べたのではないでしょうか。子ども達が給食や食育・調理保育を通じて単に「食べること」だけでなく「食について考えること」「食を通じて文化を知ること」の大切さを理解し、食への興味を深め、成長していく姿を間近で見ることができ大変嬉しく感じております。

今年度をもちまして私たちメフォスの給食提供は終了となりますが委託業務を担当してから３年間、子どもたちの好奇心を引き出しながら楽しく学べる環境のお手伝いをさせて頂き、また行事食・郷土料理食など新たな試みにも信頼をおいて任せていただきましたこと、保護者の皆様・先生方に厚く御礼申し上げます。幼少期の食の経験はその後の食生活にも大きく影響を与えます。これからもお子様達が食を通じて様々なことに興味を抱き、健やかに成長されることを心よりお祈り申し上げます。

ドライフルーツ作り

健やかな成長を祈って

看護師　宇山真紀子

桜咲く４月で始まった今年度、長い夏が終わるといきなり冬のようでした。当たり前と思っていた季節や地象が近年温暖化の影響もあり変わってきており、そのことによる体調の変化や成長発達への影響を考え安全安心な環境を整えてきました。

７月から０，１歳児を対象に icuco という睡眠観察センサーを導入しました。保育園では特に低年齢児・お預かり始め・うつぶせ寝などのリスクに着目し観察記録を続けていましたが、小さなセンサーを子どもの下着に付けることで体動・体位・体温などを観察記録できるようになりました。また、感染症対策として換気の指標となるCO２センサーを使用し室内空気の状況も見るようにしました。もちろん保育者の目視、接触、体感、状況設定などを大切にしていますが、機械機器も安全性の向上や業務の効率化に貢献してくれています。

幼児組には毎月健康教育として、心も体も元気に過ごせるように年齢に合わせた話を続けています。健康を維持することに大切な手洗いは、話を始める前に歌に合わせてその場で洗い方を復習することでとても上手になりました。特に５歳児は実際に手を洗う時でも隅々まで丁寧に洗えるようになりました。今年度は新たに“その人らしく歩めるように”との思いを込めた「ナイスクラウニング」という本をスライドにして読みました。急成長する乳幼児期、何かが出来るようになることに注目しがちですが、自分にとって都合の良いことばかりが起きるわけではなく、思い通りにいかないこともあります。本に登場するカラフルな色をしたピエロが「どんな自分でも“大丈夫”」とことある度に言ってくれます。話を聞いている子ども達は明るく温かい絵と繰り返される同じ言葉に、静かに最後まで話を聞いていました。今回初めて健康教育として取り入れたので、今後繰り返し話をしていく中で、「今の自分で大丈夫なんだ」という自己肯定感を子ども達が高められるように、また、自分のしたいことはあるけれど出来ないこともあることを知り、折り合いがつけようと思う気持ちがもてるように話をしたいと思っています。

入園当初、保健室に入るのを嫌がり泣いていた子も、半年もたたないうちに玩具や飾りでふとした瞬間に気持ちを切り替え、泣かずに入室し遊び始るようになったり、身体測定を怖がり腰が引けていた子も、自ら友だちのお手本として身長計に乗れるようになりました。子どもの成長には目を見張るものがあります。日々のほんの小さなことへの関わりにも丁寧さを忘れずに、子ども達の健やかな成長を祈って来年度も過ごしていきたいと思います。

父母の会より

いつも父母会の活動にご賛同いただきありがとうございます。今年度も様々な活動を行いました。５月のお譲り会、６月の総会、11 月の秋祭り、３月の進級祝いの贈り物準備など、保護者の皆さまのご協力のもと無事に開催することができました。

毎年好評のお譲り会では、今年度も多くの方にご参加いただきました。いらなくなった服やおもちゃを譲り合うだけでなく一緒に遊んだりお話ししたりと、親子で楽しい時間を過ごすことができました。秋祭りは保育園主催の行事でしたが、父母会とおやじの会でも出し物を企画し、当日は大盛況となりました。たくさんの子どもたちの笑顔を見ることができ、大変嬉しく思いました。

この１年間、会長として至らない点も多々あったかと思いますが、温かく支えてくださった役員の皆さまのおかげで無事に務めることができました。人柄も仕事ぶりも素晴らしく、ママ・パパとしても尊敬できる皆さまと共に活動できたことで、私にとっても楽しく充実した時間となり心から感謝しております。また子どもたちのために、そして時には子どもたちと一緒に、楽しい行事を企画し共有できたことが何よりの喜びです。

来年度以降も、父母会がますます発展し、子どもたちにとって楽しく温かい環境が続いていくことを願っています。１年間、本当にありがとうございました。

富澤　裕子

おやじの会より

コロナ禍で長男が入園し、現在は次男もお世話になっております。

長男が入園した当初、保護者同士の関わりも少なくならざるを得ませんでしたが、23 年夏以降前任の渡辺さんの声掛けに始まり、おやじの会企画が再始動しました。（親子クッキング動画ぜひご覧ください！）園舎の改装等もあり、柔軟にできることを模索し、子どもたちとお母さま方に喜んでもらえることを念頭に置いて活動を検討してきました。

今年度は夏祭りの出店に始まり、11 月の秋祭りでピンボールとボウリングのブースを出店しました。秋祭りと同時期に愛星保育園おやじの会Ｔシャツの購入希望も募りましたが、そのＴシャツを着て子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿が印象的でした。（また一定程度の数の購入希望がありましたら一括購入したいと思います。お気軽にお声掛けください。）

24 年度の活動はお父さま方の多大なる尽力、そして先生方のサポートによって大成功に終わりました。引き続き大正さんとダブル会長という形で微力かつ僭越ながら、子どもたちやお母さま方に笑顔を増やして参ります！

お父さま方も、ぜひ一度おやじの会がどんなものか覗いてみていただけますと幸いです。

引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

杉本昌毅

～秋祭りでの様子～

２５年４月から「勝負の年」として経営にあたります！

法人理事長　結城康博

保護者のみなさん、いつも子育てと仕事の両立で、日々、大変かと思いますが、いかがでしょうか？ご承知のとおり超少子化時代が到来して社会問題となっています。そのため、東京２３区内の保育園・幼稚園などは定員割れが目立ち、乳幼児の奪い合いといった状況です。数年前までは、待機児童問題なども社会を賑わせていたのですが、少なくとも全く逆の事態となっています。

このような競争激化の保育園業界において、「選ばれる保育園」といった理念がないと、１０年、２０年先の愛星保育園は、存続・維持できないと認識しています。ご存じのように港区内の認可保育園の定員割れ状況は、役所 HP をご覧になれば直ぐにわかるかと思います。そのため、「選ばれる保育園」という理念の下で、２５年４月から「勝負の年」として、以下のような経営方針で事業運営していきたいと思います。

第一に、給食等における「食」を重要視して、食材など少しでも安心できる給食等を提供できるようにしていきます。具体的には給食委託業者を替えさせていただき、できる限り「国産の食材」で食を提供できるように努力していきます。保育において、たいへん「食」は重要なポイントと考えています。多少、委託料などの経費は増えますが、他の事業運営で勉強させていただき努力していきたいと思います。

第二に、継続して保育士等の配置を多くしていきます。実際、法定基準配置では残念ですが、きめ細かな保育サービスを提供するには課題があります。ギリギリの人員基準では、「職員の休日確保」「日々の保育に余裕がない」などの問題が生じかねません。そのため、法定基準よりも多めに職員を配置して、職員に負担がないような人事マネジメントに心掛けていきたいと思います。

第三に、上記の項目と関連しますが、いつでも職員が保護者の方と、立ち話でも相談できる環境を作っていきたいと思います。人員配置に余裕がないと、職員も保護者の方との「ちょっとした会話」の時間が取りづらいでしょうから、保護者の方が気軽に職員と話せる雰囲気づくりに努めていきます。職員にも「保護者の方とのちょっとした会話が重要」との意識付けに、理事長として心掛けるように働きかけていきます。

以上のような経営方針で、今後、運営していきたいと思います。１法人１施設といった小さな社会福祉法人です。「規模の経済」が働かない課題もありますが、何とか努力して「選ばれる保育園」＝「質の高いサービス提供」ができるようにしていきたいと思いますので、どうか多方面でご協力いただければ幸いです。